



原小だより



学校教育目標
・心豊かな子
・たくましい子
・自ら学ぶ子

7月号

令和8年6月30日
さいたま市立原山小学校

「共同体感覚」

校長 財部 幸樹

清掃の時間、私は南校舎3階のトイレ付近の廊下を清掃しています。ここは、水滴の跡と思われる丸い黒ずみがたくさんできます。少しずつこすり落としていると、掃除場所と教室を行き来する3年生に声をかけられました。

「掃除していただき、ありがとうございます。自分たちも掃除をがんばります。」

つい先日まで低学年だった子どもたちから、このような丁寧な言葉を聞き、驚きました。

ふと横を見ると、6年生が渡り廊下を磨いてくれています。

「校長先生に負けないよう、こすり落とします。」

また、うれしい言葉です。少し話をしながら一緒に廊下を磨いていると、やがて清掃時間が終わりを迎えます。一緒に清掃を振り返ると、6年生から、「あっという間の清掃時間でした。ここを通る人たちが喜んでくれるといいな。」

「いつもよりきれいになった気がします。みんなのためにがんばりました。」

といった、高学年らしい思いを素直に語ってくれました。



今年度、本校では「共同体感覚」をテーマの一つに据えて学校課題研究を進めています。「共同体感覚」とは、自分のことだけでなく周りの人にも関心を向け、「自分が誰かの役に立っている」「自分は集団の一員である」と実感できる心の在り方です。そして、「ありのままの自分でいられる安心感」とも深く結び付いています。

今回の清掃の場面には、まさにその姿が表れていました。3年生の感謝の言葉、6年生の自発的な手伝い、そして「誰かのために」という思い。そこには、年齢を越えたつながりと、互いを思いやる心が確かに育っています。こうした日常の一場面の積み重ねこそが、子どもたちの「共同体感覚」を着実に育てていくのだと感じています。

これからも、一人一人が誰かのために行動し、そのよさを実感できる学校づくりを大切にしていきたいと思います。そして、冒頭に紹介したような、温かい言葉と行動が自然にあふれ出る子どもたちを、これからも丁寧に育てていきたいと考えています。保護者の皆様におかれましても、日々の生活の中で見られるお子さまの思いやりの言葉や行動をぜひ認め、励ましていただけますと幸いです。今後とも、本校の教育活動にご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

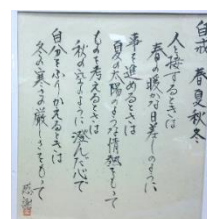
自戒「春夏秋冬」(出典不明)

春…人と接するときは、春の暖かな日差しのように

夏…事を進めるときは、夏の太陽のような情熱をもって

秋…ものを考えるときは、秋の空のように澄んだ心で

冬…自分をふりかえるときは、冬の寒さの厳しさをもって



1学期まとめの月。1学期に立てた学級目標を改めて振り返り、自分たちのめあてに向かってラストスパートをかけたい「7月」。一人一人の努力が、個人の、そして学級や学校全体の力になる。

事を進める時は、夏の太陽のような情熱をもって。

(巻頭言は、今回が1学期最終となります。)